

履正社学園豊中中学校・履正社高等学校 図書館



# 図書館だより



## 9月の新収図書 紹介

### 9月の新収図書 紹介

### あっ!! こんなところに 文庫本!

文庫本を入れてほしい、との声に応じて、中高生が主人公の小説を中心に文庫本も収集しました。詩集も届きました。読書の秋に、ぜひ、等身大の主人公たちの悩みや葛藤に触れてみてください。

いくつか紹介しましょう。

#### 「海辺のカフカ」村上春樹

村上春樹作品の中では珍しく15歳の少年が主人公です。



#### 「西の魔女が死んだ」梨木香歩

学校生活にちょっとくたびれてしまった少女まい。彼女の大好きなおばあちゃんは本物の魔女。おばあちゃんから本物の生きる力を紡ぎだしていく。

#### 「幸福な食卓」瀬尾 まいこ

家族に辛い試練が訪れたときも、朝は普通にやってきた。切なくて、ちょっとおかしくて温かい、優しすぎるストーリー。

#### 「自分の感受性くらい」茨木のり子

ばさばさに渴いてゆく心を/ひとのせいにはするな/みずから水やりを怠っておいて —— ハッとする言葉が紡がれている詩集。



リクエストがあれば、相談に応じます!



## 図書館利用上の注意—最近よく見受ける事項

### キャレルでは

私語は禁止です。

生徒同士の学習に関する相談や質問もできません。物の貸し借りに伴う会話もできません。静かに自学自習できる環境を、みんなで作りましょう。もし、図書係の先生に注意されたら、素直に従って下さい。

### 閲覧席では

本などの図書資料は一般閲覧席で読んで下さい。それらをキャレルへ持ち込むことはできません。

閲覧席で、友達同士が隣合わせや向かい合わせの席に座ったときでも、話をしてはいけません。話をやめないときは、係の先生が、互いに離れた場所に座るよう強制的に席替えさせることがあります。

### 上履きは、番号札と同じくつ棚へ

閲覧席もキャレルも、使うときにはカウンターで、必ず「番号札」を登録し、入館時刻を記入した上で、閲覧席は閲覧席用の、キャレルはキャレル用のくつ箱の、番号札どおりの場所に上履きを入れて下さい。帰るときになって、初めて自分の上履きが他人の上履きと入れ替わっているのに気づく人がいます。図書館に来たときに、閲覧用のくつ箱とキャレル用のくつ箱を間違えてないか、番号札の番号どおりの場所に入れたかどうか、必ず確認してください。



## 合格体験記 祝!大阪府立大学 合格 半田真亜奈さん

6カ年特進コース (履正社学園豊中中学校出身)

合格大学: 大阪府立大学(地域保健学域看護学類)

私は、6カ年特進コース出身者ですが、高校での3年間は、決して楽なものではありませんでした。毎日7時過ぎまでの放課後講座や毎日のたくさんの課題。授業での課題が多すぎて、自分の弱点を十分に補強するための勉強にまで手が回らず、悔しい思いをしたこともありました。しかし、履正社は、勉強しやすい環境が整っていたとも思います。特に、図書館のキャレルは本当に良いものでした。定期テストの期間中は、いつも集中しやすい図書館で勉強できたからです。そのとき、全科目を計画的にこなすようにしていました。キャレルでの勉強中、分からないことがあれば、どんなに些細なことでも、隣の職員室へ質問に行きました。そうしているうちに、分からないことは残さないという習慣が身に付き、成績の向上にもつながったと思います。

後輩のみなさん、受験のために特に必要なものは、やる気と根気と集中力です。それらを、図書館で磨き上げて下さい。また、安心して先生方の授業に付いて行って下さい。履正社の環境は、本当に、素晴らしいので、それらを大いに活用すべきだと思います。毎日の学園生活で、やるべきことはたくさんありますが、志望校に合格するまで諦めずに頑張ってください。

図書係中村泉のコメント

図書館での自学自習を、計画的に実践することができたようです。半田さんにとって、「やる気=自発性・自律性」・「根気=継続性・重層性」・「集中力=鋭敏性・濃密性」を養成できたことは、非常に有意義な経験だったと言えるでしょう。これで、将来は看護師となって社会の人たちに貢献するという夢に、一步近づくことができましたね。

## 合格体験記 祝!大阪教育大学 合格 菅原奈々さん

集約I類文系コース (能勢町立東中学校出身)

合格大学: 大阪教育大学(教育学部教養学科文化研究専攻日本・アジア言語文化コース)

関西学院大学(法学部・人間福祉学部) ・近畿大学(法学部)

私は、1年生の時から定期テストの前やその期間中に、図書館を利用していました。自宅では、誘惑や雑音が多くて集中できなかったからです。3年生になると、受験の直前では、毎日のように図書館で過去問題を解いたり、苦手な数学の勉強をしたりしていました。進学講座が終わってからだったので、長時間残ることはできませんでしたが、日々の積み重ねの中で、力がつくのを実感できました。

2次試験の小論文の対策は、図書館でしっかりと実践しました。それは、6年分の過去問題から専攻学科の特性を分析して対策を練ることから始め、『国語便覧』に基づいて「日本文学史」をノートにまとめました。また、図書館の蔵書の中から、出題傾向に関連する「ことば遊び」に関する本も一読しました。実際の試験では、その中から非常に類似したものが出題されたのです。直前に目を通していたので、試験場では手を止めることなく書き切ることができました。

私が、塾に通わずに、現役で国立大学に合格できたのは、本当にこれらの図書館での自習の成果だと思います。

在校生のみなさん、毎日の早朝テストや遅くまでの講座に加え、図書館に残って勉強してから帰宅することは、大変なことだと思います。しかし、それによって、自信をもつことができ、思い描く大学合格に一歩近づくのもまた事実です。是非、キャレルや蔵書を利用して合格を勝ち取り、夢を叶えてください。

図書係中村泉のコメント

菅原さんの毎日の地道な努力が、ここに大きく結実しました。いつも、自分の課題に真剣に取り組んでいたからでしょう。特に、2次試験の小論文対策では、①出題傾向を正確に分析したこと、②「ノート作り」を履行したこと、③館内蔵書で知識を増加させたこと、④多くの過去問題と格闘したこと、の4点がうまく連動しました。用意周到な対策勉強だったと思います。まさに「受験生の鏡」ですね。